

2018年度卒業研究論文優秀賞

2018年度卒業生が執筆した卒業研究論文の中から、指導教員の推薦に基づいて優秀論文を選出しました。「卒業研究」は英語英文学科の必修科目で、4年間の学びの集大成となります。選ばれたみなさま、おめでとうございます！

石塚ゼミ/安田菜摘さん「日本アニメ映画における囃子ことばの吹き替え翻訳」

○要旨

本稿は、日本アニメの吹き替え翻訳における、ある特徴的な処理についての考察である。映画の翻訳には字幕と吹き替えの2種類があるが、吹き替え翻訳においては、原語の音声の特徴が重要な要素となる場合がある。例えば、子供同士の言語コミュニケーションの特徴の一つとして、「指切げんまん」など、韻律を伴う発話、つまり囃子ことばがある。こうした囃子ことばは子供の世界を描いたアニメーション作品にも表れることがあり、その吹き替え翻訳の処理には、辞書的な対訳語の選択を超える様々な要素が関与することが予測される。本稿では、こうした翻訳に焦点を当て、実際のアニメ映画から五つの例を取り上げる。分析においては、主にコミュニケーションにおける発話の機能に注目し、アニメ作品における囃子ことばの翻訳のあり方を考察する。

○指導教員からのコメント

本研究の評価は、まずその着眼点の独自性にある。3年次のサマーキャンプにおける研究発表では日本アニメの翻訳のうち、字幕と吹き替えの比較を扱っていたが、まだ自分の興味を探りかねる様子であった。しかし、年次報告論文からは、一貫して音声の特徴の訳出にこだわり、粘り強く研究に取り組み、卒業論文では、一見、とりとめない現象を一つの研究対象としてまとめることに成功した。ゼミでの2年間の活動を有意義に生かし、自分の興味を発見し、深めた研究であったといえる。特定の理論に依拠した研究ではないが、言語学における韻律を伴う発話の扱いなどの文献調査も行ったことで、研究対象の輪郭がより明確になった。また、機能的等価性や非言語情報の役割の観点からの分析から、特殊に見える現象から翻訳一般の問題を考察しうる可能性が垣間見られた。

Barrsゼミ/中町紗帆さん The Power of the Ethnic Epithet “Jap” in Modern Times

○要旨

This thesis investigated the power of the epithet “Jap” in modern times via the combined methods of a survey conducted with international students and international visitors in Hiroshima and a corpus linguistic analysis of the collocations of the word “Jap” in American English. The overall finding of the research was that the word “Jap” still holds derogatory power, even with the passing of 70 years since its main use as a propaganda term during World War Two. Specifically, the majority of survey respondents were familiar with the term and stated that they choose not to use it because of its derogatory connotations. Further, the collocational analysis showed the word continues to be used in relation to descriptions of World War Two events.

○指導教員からのコメント

This was a well-designed research project which combined various methods of research (survey and corpus analysis) in order to investigate a topic of sociolinguistic importance. The combination of respondent opinions and collocational analysis resulted in informative and interesting findings, which were presented in a well-constructed and presented thesis.

戸出ゼミ/蔭隼人さん「日本の中等教育におけるハイブリッド型TBLT導入の可能性—東アジアの社会的、文化的価値観の視点から」

○要旨

日本の学校教育に深く根付いた社会的・文化的価値観とどう折り合いをつけながらタスク中心言語指導(Task-Based Language Teaching [TBLT])を取り入れていくべきかを論じた。TBLTは、伝統的指導法とは違って、前もって目標言語のルールを明示的に教えることをせず、タスクを用いた言語使用を通して暗黙的知識の発達を促していく指導法であるが、テスト文化、教師・生徒の役割に関する信条などの点で、日本の教室で取り入れるには課題が山積している。本論文は、関係の先行研究に基づいて、TBLTと伝統的指導を並列させるハイブリッド型モジュールアプローチを提案している。

○指導教員からのコメント

先行研究をしっかりと読み込んで強固な理論的基盤に基づいた論理を展開することができました。このことは英語論文を含む40本もの引用文献リストが物語っています。本卒業論文は、データを収集・分析するという実証研究ではありませんでしたが、その前段階として、先行研究を読み込んで確固たる背景知識をつけたことは立派です。大学院の研究では、これを基にさらに研究課題を絞り、実証研究に挑戦してください。

大澤ゼミ/古川千尋さん「スピーチ分析を通して見るバラク・オバマとドナルド・トランプ」

○要旨

同じアメリカ大統領ではあるものの異なったイメージを持たれることの多いオバマ前大統領とトランプ大統領のスピーチで用いられている言語的特徴を探った論文。総語数をはじめとして、法助動詞、発話行為動詞、人称代名詞、語彙レベル、頻出語句、形容詞、使役動詞など多様な角度からの分析を行った。その結果、オバマ氏は多様な法助動詞を駆使してスピーチを行うなど、聴衆により訴えかけるスタイルのスピーチを行っていることが明らかになった。

○指導教員からのコメント

両大統領のスピーチを抽出しデータ化したものを綿密に精査し、ウェブ上にある複数のテキスト分析ツールを駆使して分析を行いました。オバマ大統領のスピーチは有名ですが、トランプ大統領のものと比較することによって、どのような違いがあるかが明らかになりました。また量的な分析にとどまらず具体例を交えた質的な分析を丁寧に行っている点も評価できます。